

2011 年度決算説明会 ネットカンファレンス質疑応答

日時:	2012 年 5 月 10 日 16:00~17:00
説明者:	IR・広報部 IR グループリーダー 西尾寛
説明資料	2011 年度決算の概要

Q & A

【稼働率、在庫状況について】

Q1. 主要な石化関係製品の稼働率について、下期から足下の変化を教えてください。

A1. 石化:

オレフィン; 第 4 四半期は一部定修を含め、80%弱でした。在庫調整が 3 月末で完了しましたので、現在 80%台まで上げています。

PE; 第 4 四半期は生産調整を含め 70%程度でしたが、現在は稼働を上げています。

エポリユール®は輸出を継続しており、フル稼働が続いています。

PP; 第 4 四半期は生産調整のため 80%強でした。現在、自動車生産等が堅調に推移しており、90%前後まで稼働を上げています。

基礎化:

PH、BPA; 1月下旬まで大幅な生産調整をしていたため、第 4 四半期は 85%前後でした。現在は、ほぼフル稼働に近い状況です。

お客様の在庫調整も進み、ポリカーボネートの稼働も上昇してきています。

PTA; 第 4 四半期はタイ洪水影響もあり 95%前後の稼働でした。現在は、岩国大竹工場のプラントが停止したため、タイでフル稼働になっています。

ウレタン:

TDI; 第 4 四半期は在庫調整のため 65%前後。現在は定修前での在庫積み増しもあり、85%程度まで稼働を上げています。

Q2. 3 月末で在庫調整はほぼ終了していると考えてよいか。

A2. 全セグメントとも、3 月末に在庫調整は完了しています。

【基礎化学品事業について】

Q3. PTA と PH について、今後の市場動向をどう見ているか。

A3. PH; 現在ははまだ本格的なマージン改善には至っていませんが、ポリカーボネート等の在庫調整も進んできており、需要が回復してくれば、マージンも回復してくると見込んでいます。

PTA; 4 月に入ってもマージンは厳しく、第 4 四半期から回復していない状況です。

背景として、原料パラキシレンの供給能力に対して、新增設が相次ぐ PTA の生産能力が過大なため、パラキシレンの価格が上昇していることが一因です。

また、衣料品需要の伸びに対してポリエステル繊維も供給過剰であるため、ポリエステル繊維メーカーも値上げできない状況です。

11 年度に比べて 12 年度はマージンが悪化すると見えています。

但し、今後ポリエステル繊維の在庫調整が進むに従い、PTA を含むチェーン全体のマージンは改善していくと見えています。

【機能樹脂、加工品事業について】

Q4. 12 年度の見通しを教えてください。

A4. 機能樹脂; 自動車関連は 12 年度も堅調に推移すると見ており、数量面での伸びが期待できます。一方、電子・情報関連は、大きな改善は無いと見えています。

加工品; ソーラーエバ™ は 12 年度も在庫調整局面が続くと見えています。

太陽電池関連マーケットの拡大に伴い、稼働は上がると思われますが大きな伸びはなく、市況的にも厳しい局面が続くと見えています。

【ウレタン事業について】

Q5. TDI 市況が直近で 3000 ドル/トン超まで上がっている。この背景をどう見ているか。

A5. 当社を含む TDI メーカー各社の大幅減産、中国でのプラントのトラブルや南米でのプラント廃棄などの影響で供給がタイトになった結果、市況が回復してきたと認識しています。

Q6. 12 年度の業績見通しについて教えて欲しい。

A6. 12 年度は、コストダウンの更なる上積み、ウレタン原料事業の減損による減価償却費減少、PPG を 3 拠点から 2 拠点に集約したことによる固定費削減効果、により業績改善を行います。

15 年度までにトータル 80 億円のコストダウンを計画しており、初年度である 11 年度は 30 億円の実績を上げることができました。12 年度の目標につきましては業績予想の中で詳細を詰めていく予定です。

TDI 市況も足下ではかなり回復してきており、セグメント全体として大きく業績改善できると見ています。

【岩国大竹工場事故に関連して】

Q7. 岩国大竹工場の復旧計画見通しについて教えてください。

A7. 現在、関係ご当局の調査中であり、当局の了承の範囲内で復旧に向けた飛散物の撤去等を行っています。調査が終了した段階でないと復旧計画は立てられない状況です。

レゾルシン(RS)、サイメン(CY)は火災発生プラントであり、短時間での復旧は困難と見ています。

それ以外は、ダメージを把握しつつある段階です。

調査が終わり再開の許可が出た段階で順次復旧準備を進めていきます。

Q8. ダメージが大きいのは、RS と CY のみと考えてよいか、また、代替の可能性はあるか。

A8. プラントとして特にダメージが大きいのは 2 プラントですが、CY はメタパラクレゾールの原料に使っているため、メタパラクレゾールについても他の製品に比べて復旧に時間がかかると見ています。玉融通を含め代替手段について検討中です。

現在、岩国大竹工場の全生産品につきまして、お客様のご迷惑を最小限にすべく、各事業部にて詳細を調査し対応を進めております。

また、お客様側のサプライチェーン、エンドの需要に対する影響については現在調査中です。

【その他】

Q9. 11 年度での低価法の影響や震災影響等、特殊要因を教えてください。

A9. それぞれ次の通りと見ています。

- ・ 低価法の影響額; PL の絶対値として 16 億円のマイナス影響。
- ・ 震災; 営業損失 12 億円程度、特別損失で 14 億円程度。
- ・ タイ洪水影響; 石化 PP コンパウンドを中心に、全事業トータル 20 億円程度。

Q10. 12 年度の会計上の変更点について教えてください。

A10. * 海外関係会社の決算期の見直しについて

タイとシンガポールの次の 5 社が 12 年度より 15 ヶ月決算となります。

- ・ GRAND SIAM COMPOSITES CO., LTD.
- ・ SIAM MITSUI PTA CO., LTD.
- ・ THAI MITSUI SPECIALTY CHEMICALS CO., LTD.
- ・ MITSUI PHENOLS SINGAPORE PTE.LTD.
- ・ MITSUI CHEMICALS ASIA PACIFIC, LTD.

*** 減価償却方法の変更について**

定率法から定額法へ変更を予定しています。影響額は、業績予想を出していないので正確ではありませんが、直近の試算で 100 億円強程度と見ています。

*** ウレタン原料事業の減損処理の影響**

対 11 年度比、30 億円程度減価償却費が減少します。